

2024年度 後期

関東学院大学 寄附講座報告書

～ グリーン購入がひらく環境未来都市 ～



ごあいさつ

中小企業においても、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みは必須であり、近年は、積極的に取り組む企業が増えてきました。会員のみなさまもSDGsの一環としてグリーン購入をはじめとした環境への取り組みを進めておられると思います。

SDGsは、企業にとっては、CSR（企業の社内的責任）課題の中から、社会セクター側の代表格でもある国連が重要と判断した取組みを指定したものであり、企業からみれば、社会性戦略上の重要課題です。したがって、取り組みを進めたら、事業評価を行い、マネジメントレビューに乗せる必要があります。

ただ、SDGsのように社会性の高いCSRの場合、社会的意義と経営的意味の両方を評価せねばなりません。

このような評価は大変ですが、近年の大学教育においては、CSRや環境問題、まちづくりなどに力を入れている大学が多く、そのような教育を受けている学生の感想や意見は、企業にとって得るものが大きいと思います。

寄附講座は大学の正規授業の一環で行われ、学生には単位も出ますが、内容や運営については、担当する各企業が自由に設計できます。具体的には、授業の中で自社の取組みや課題に関するテーマを設定し、学生にグループディスカッションをさせて意見や提案を吸い上げるということも可能です。また、授業後に、自社で作ったアンケートを実施したり、指定したテーマでレポートを提出させたりすることも可能です。アンケート用紙やレポート用紙のご用意がなくとも、授業で使うレスポンスシートやレポート用紙をそのまま使って頂くことができます。

また、寄附講座は、「環境」をテーマに専門的に学んでいる学生が多く履修していることから、講義への関心が高い学生が履修しています。関心をもって学ぶ学生に接すると、講座を担当された社員の方にも刺激になるのではないかと思います。会社の業務や活動を担うことでやりがいを得ると、会社への求心力や業務パフォーマンスも高まります。寄附講座を通して良い社員を育てることもできるのです。

さらに、「環境」への関心が高い学生に自社をアピールする面もあると思います。感想カードを見ると、講義を聴いた学生に伝わるものが大きいことがわかります。当寄附講座は、学生が実践的学びを得る場として教育上きわめて大きな意義があるとともに、企業にとっても様々なメリットがある講座です。ぜひ貴社もご参加いただけましたら幸いです。



横浜グリーン購入ネットワーク会長
横浜市立大学 名誉教授
関東学院大学理工学部 講師

影山 摩子弥

2024年度 関東学院大学寄附講座内容一覧

講義順	日程 全て金曜日	事業者名	タイトル
1	10月8日	株式会社大川印刷	経営者に学ぶリーダーシップと経営理論
2	10月15日	Permanent Planet 株式会社	SDGs って何？ビジネスがSDGsを取り入れる必要性
3	10月22日	太陽油脂株式会社	太陽油脂のSDGs取り組み (石けん教室、RSPOについて)
4	10月29日	株式会社サカモト	森の麓の拠点「さとのえ」の取り組み ～森・地域・暮らしの健やかな持続性の向上を～
5	11月12日	株式会社ダイイチ	アパレル業界の課題・ダイイチのSDGsの取り組み
6	11月19日	生活協同組合ユーコープ	ユーコープの“まるごとサステナブル”
7	11月26日	武松事業デザイン工房株式会社 (かんきょうデザインプロジェクト)	ごみは社会を映す鏡
8	12月3日	生活協同組合パルシステム神奈川	生協ってなに？ ふしぎな組織の環境活動
9	12月10日	株式会社オカムラ	オカムラの木材利活用による“サステナビリティの推進”
10	12月17日	東洋電機製造株式会社	会社概要と当社のサステナビリティ活動の紹介／ 鉄道の環境優位性、SDGs ー鉄道技術とエコプロジェクトの関わりー
11	12月24日	横浜市	第1部：過去に学び、これからの環境を考える ～環境対策の歴史からSDGsまで～ 第2部：昨今の生物多様性の動向について ～主に環境行動の側面から～

【対象学生】

工学部、理工学部、建築・環境学部の2年生～4年生、75名

【授業の時間帯】

2024年10月8日から毎週火曜日 15:10～16:50 全11回



経営者に学ぶリーダーシップと経営理論

2024 年
10 月 8 日

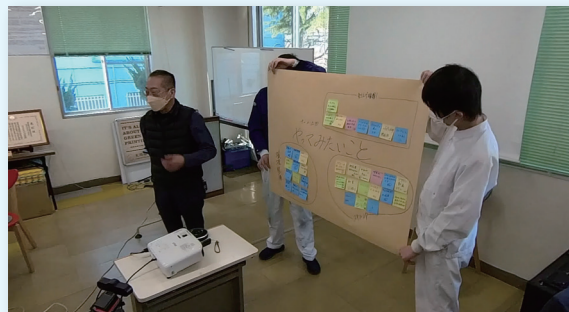


大川印刷
OHKAWA PRINTING, SINCE 1881

株式会社大川印刷 代表取締役：大川 哲郎

講 義 内 容

大川印刷におけるグリーン購入や脱炭素経営に関係する取り組みを40分程度紹介し、その後5～6チームに分かれて、デジタル化社会におけるデジタルと紙の在り方をグループディスカッションで考えてもらった。その中でペーパーレス～デジタル～ Chat GPTへの活用について、「こんな使い方はどうだろう？」など意見やアイディア、逆に紙を活用すべきではないかという点も話し合いが行われた。その後グループ発表をしてもらい、各グループで話し合われた内容の共有を行った。



受講生 の感想

- ・ ディスカッションなどはあまり得意な方ではないが、自分と違う意見などが出ると、新しい発見になり、とても良い体験になったと思った。各班の発表を聞いていて、レシートのことや図書館のことなどが新しい発見で、勉強になることが多かった。
- ・ 古い本をデジタル化することで読みづかった文字が鮮明に見えるなどメリットは多いと思うが、紙に直接触れて文字を読むことが本の楽しみ方な気もするので、今日の授業でなんでもデジタル化すればいいわけではないということがわかった。

担当者 の感想

学生さんのデジタル、紙メディアの考え方、そして活用のアイディアについて意見やアイディアが得られたことがメリットです。



SDGs って何？ビジネスがSDGsを取り入れる必要性

2024 年
10 月 15 日



Permanent Planet株式会社 代表取締役：池田 陸郎

講 義 内 容

Permanent Planet では、企業におけるSDGsのビジネス実装メソッドとしてゼミナールやセミナーを展開し、全国各地の企業のSDGsや脱炭素経営を多数支援しております。今回はなぜ企業にとってSDGs経営が重要となるのか、具体的な事例を交えてお話ししました。また、地元横浜市や神奈川県などはもちろん、他地域におけるSDGsに関連する自治体の取組と企業の取組を知ることによって、学生が自らの就職先を選定したり、また自らの行動を見直すキッカケ作りも目的としています。

自分達がどう行動するかが未来の方向を決める時代となり、自分の購買行動がSDGsの達成とどうつながっていくか、学生に理解いただけたと思います。

1. SDGsとは

世界と日本をとりまく状況について

2. SDGsから考えるビジネスチャンス

事業におけるSDGs実装の必要性

「CO₂排出量を知る・選ぶ」を当たり前に。買い物は未来への投票（画像左）

3. SDGs達成へのコミュニケーション

SDGs達成はどんな仕事でも貢献できる！

SDGsコミュニケーションによるリスクの除去

4. 次世代の挑戦

湘南青少年環境会議 in 逗子（画像中）、

逗子SDGs絵日記プロジェクト（画像右）



受講生 の感想

- SDGsは知っていたが、いざ自分たちの生活にどれほど影響しているのか考えていなかった。買うものに対して、輸入物を買うことなどあまり考えず買っていた。
日本は変わらないと思っていたが、もっとアクションを起こすことや、自分がこれから社会の人間として出ていく先で行動に移すべきだと感じた。また就職に対して、SDGsが指標になることを気づかされた。
- 綺麗事でSDGsをやりたいと言っているだけではなく、しっかり利益も考慮しながらの考え方だったのでぐく分かりやすく共感できた。SDGsに参加することで事業としても成り立ち、今後10年20年会社を運営していく上で他の会社と差別化していくための大切な価値になり得ることもわかった。新しい知識になりました。

担当者 の感想

今の大学生は小学生のころからSDGsが授業で取り入れられており、大筋の理解はあるものの、自らの購買行動などを見直すことは少ないと感じています。

また、企業の取り組みを知ること、社会人として、企業や地域にどうかかわっていくか多角的な視点で考える人を育て、地元の財産となる人材を育成することができると考えています。



太陽油脂のSDGs 取り組み (石けん教室、RSPO について)

2024 年
10 月 22 日



太陽油脂株式会社 人事総務グループ 総務・サステナビリティ推進チーム：
中村 宏美、原 充宏、東山 俊明

講義 内容

- 1) 太陽油脂のSDGs/環境への取り組みについて知る
- 2) 環境や人体に対する石けんのやさしさや、SDGsとの関係を学ぶことでエシカル消費の普及を計る
- 3) 石けんの原料としても使われているパーム油について、現地の状況やRSPO認証制度について学ぶ



企業紹介と当社のSDGsや環境への取り組みを紹介させて頂いたのち、なぜ石けんが環境や人体に対してやさしいとされるのかについて、石けんの「はたらき」や「性質」、正しい使い方について説明し、実験などの映像を視聴して頂きながら講義を行いました。

パーム油に関する講義では、基本的な説明から様々な課題（森林減少や生物多様性消失、泥炭地開発、労働問題など）を説明し、RSPO認証制度の紹介や環境にやさしい製品を選んで使う「エシカル消費」の大切さを伝えました。

受講生 の感想

- ・太陽油脂の講義を聞いての感想は、色々なSDGsをやっていたこと。特にその中で良いと思ったSDGsは「女性と現場にスマイルを」が良いと思った。これは男女平等ではないと言う人がいると思うが、近年女性の働く人が少なくなっていてほぼ多くの職場が男性の割合が多くなっているのてこういうことをやることは良いことだと思った。石けんは分解が早いことが分かった。石鹸の使い過ぎは良くなって正しい使い方を知り必要な量を適切に使うことが良いことを学ぶことが出来た。提案は、環境配慮の提案をします。再生プラスチックやバイオプラスチックの導入を拡大し、廃棄物の削減と海洋汚染の防止を目指したほうが良いと考えた。
- ・太陽油脂のSDGsへの取り組みを学んで、環境への真摯な姿勢が印象的でした。持続可能なパーム油や再生可能エネルギーの活用、廃棄物の削減など、環境保護に強い意志を感じました。また、社員の多様性促進や石けん教室での教育活動など、社会や未来のための取り組みも多岐にわたっています。これらの活動が企業価値向上だけでなく、持続可能な社会への貢献として広く認められている点に感銘を受けました。
- ・太陽油脂株式会社は、「石けん教室」など、企業が直接教育活動を通じて消費者や次世代に環境意識を伝える取り組みにより、企業の社会的責任を果たすだけでなく、顧客との信頼関係を深める機会を作ることや、RSPO認証を取得し、持続可能なパーム油の使用を推進している点もSDGsの目標12「持続可能な消費と生産」を支援する取り組みであり、他企業も取り入れるべきだと感じた。また、同社は公式ウェブサイト上で環境活動や製品の成分に関する情報を公開しており、企業活動の透明性が高い点が顧客の信頼を得ていると言える。コミュニティへの貢献や、企業活動の透明性を高めることは、SDGsの活動を推進するだけでなく、企業自体の周りからのイメージやブランドの価値を高めることにも繋がっている。太陽油脂のように、製品を通じて環境と社会に配慮した活動を行う姿勢は、様々な利点をもたらすということを大々的に呼びかけることで、全体の取り組みに違いが生まれると感じた。
- ・太陽油脂は、持続可能なパーム油の利用を目指しており、環境保護や生物多様性に配慮した取り組みをしている企業だとわかりました。パーム油の生産に関わる森林伐採や動物の生息地の喪失が課題となっているため、そういった問題に配慮する姿勢が重要だと感じました。これらの行動が持続可能な社会の実現に必要なと思いました。また、消費者意識の重要性として、持続可能なパーム油を選ぶ企業や製品を支持することが、消費者としての責任でもあると感じました。課題を通して、私たち一人ひとりの選択が、企業や環境に影響を与える可能性があると感じて実感しました。太陽油脂のような企業が増えることで、パーム油生産における環境負荷が低減されることを期待しています。今後も持続可能性を重視した製品を選び、環境保護に貢献したいと思います。

担当者 の感想

今年度も関東学院大学の皆さまへ対面講義を行いました。(後日、宮城県尚絅学院大学の学生に配信予定) 学生の皆さまの感想文を読ませて頂きました。

当社の企業活動におけるSDGs貢献に繋がる活動（女性活躍推進、RSPO認証油使用、出前石けん講座、エシカル消費啓発など）の紹介を通して、サステナブルな製品づくりや取り組みを実践している企業だと認識して頂けたと思います。ただ、パーム油の問題やRSPOについてあまり認知されていない現状に、改めてエシカル消費を多くの方へ行動提起していく必要性を強く感じました。



森の麓の拠点「さとのえ」の取り組み ～森・地域・暮らしの健やかな持続性の向上を～

2024 年
10 月 29 日

◎ 坂元 植林の家 株式会社サカモト 坂元植林の家：赤塚 慶太

講義 内容

私たちは、「地域との共生」を経営理念とし、宮城県南部の柴田町を中心に東京ドーム100個超の面積の山林でスギ・ヒノキを育て、それらを自ら伐採・製材・加工・乾燥し、木の家（注文住宅）の設計・施工・アフターメンテナンス、さらにはそれらの住宅の賃貸管理や土地の売買までを一貫して担っています。講義前半では、それらの仕事内容をご紹介させていただきつつ、木材や地域でつながれてきた大工技能など、様々な形の資源をどのように循環させているのか、そのプロジェクトや仕事を具体的に説明させていただきました。特にウッドデザイン賞2024で環境大臣賞を受賞した「さとのえ成田プロジェクト」をテーマに、木の家づくりの技術・地域社会の課題・ランドスケープデザインやパーマカルチャー・建築思想・環境技術・社会とのつながりについてお話しさせていただきました。講義後半では、私たちの生きる2024年という時代を建築史や日本・世界の歴史の流れから振り返り、私たちの取り組みの根底にある考え方やあり方の提案をさせていただきました。



受講生 の感想

- ・今日の講義を聞いて、とても自然を大切にされている会社なんだなと思いました。作った家を、誰も住まなくなったらまた直して貸したり売ったりするというのを聞いて、そこまで面倒を見てくれる、自然と真摯に向き合うのはすごいなと思いました。
また、木育というのも興味が湧きました。都会に生まれ育った子はコンクリートや鉄筋に囲まれて育つというのも、心に刺さりました。もし自分に子供が出来た時、自然と向き合わせてあげたいなと思いました。
私は今学童でアルバイトをしているので、学童の児童達にも、自然に触れ合うことの大切さを伝えてあげたいなと思いました。
今回の講義で、誰かに伝えたい、教えてあげたいと思うことを沢山学べて良かったです。
- ・今回の講義を受けてみて明治維新から日本の建築は西洋化していった、当時の小説家の色々な故障や不便の中の地方から都市へは現在、都市から地方へと変わりつつあります。
しかし、私の家の周りでは古い平屋を壊し、その土地に新しい家を4～5軒も建てます。それは環境にとって良いことなのでしょう。私は新しい家が建つことで日が入りにくなったり、窓の外を見ても家しか見えない、建てるために騒音被害などとあまり良くないと感じています。また、講義内で赤塚さんが言っていた築30年前後で家が建て替えられていると聞いて何をしたいのかと思いました。日本は人口が減少しているのになぜ家は増え続けているのか疑問を抱きました。
私の父は大工をやっていて、聞いた話では家を買うことは一生ものだと言っていました。なので、買う時には今後自分がおじいちゃん、おばあちゃんになっても不便ではないか子供が住みやすいか、環境にとって良いことなのか考えて買うことが大切だと思います。ちなみに私が住みたい家は庭が広くて、縁側がついていて、自然に囲まれている家に住みたいです。

担当者 の感想

今回の講義は株式会社サカモトの赤塚さんの話を伺いました。この企業はもともと林業を主としていましたが、物価の高騰や海外輸入の木材の普及により国内の木材が売れなくなり、大工の方を雇い製材をしたり、設計、現場管理などにシフトチェンジし、林業と並行することで森を守り会社を守る、資源を巡らせることに成功したことが分かりました。しかし今、新たに問題となっているのが若い大工の少なさである。最近の住宅や注文住宅のプラモデルのような建築法ではなく、大工の手作業で細かく繊細な技術を持つ大工が必要であり、絶滅危惧であることが分かりました。私は幼い時から祖父の影響を受け、大工を目指し建築を学びたいと考えるようになったデザインやインテリアにも興味を持ち、大工になりたいという気持ちを忘れていました。でも、今日の講義を聞き、大工という存在と受け継ぐべき存在であることを、改めて理解しました。大工にしかできない建法で日本独自の日本建築を守りたいと考えることができたので、もう一度大工を視野に入れ自分自身の将来を考えたいです。今回は貴重な講義をしていただきありがとうございました。



アパレル業界の課題・ダイイチのSDGsの取り組み

2024 年
11 月 12 日



株式会社ダイイチ：佐藤、小倉、畑山、長谷川

講義内容

01. 会社概要
 - 株式会社ダイイチについて
 - ユニフォーム業界について
 - GO職場スターズ&クイズ
02. アパレル業界の課題
 - 環境問題（海洋汚染・CO₂・砂漠ゴミ放置）
 - 大量生産大量消費の問題（人権・フェアトレード）
03. ダイイチのSDGs取組
 - BRING（リサイクル）
 - 環境配慮商品の販売促進
 - 取組事例（株式会社明治 様）
 - 自社プライベートブランド環境配慮商品



受講生の感想

とてもまじめに受講している生徒が多く、興味を持って参加してくれていたことに正直驚きました。質問内容が的確でしたのでご理解頂けたと感じております。

一部、人権問題について、中国籍の子からは指摘を受けましたので来年以降は資料内容を一部変更して講義に参加したいと思います。

担当者の感想

アパレル業界はお洒落を維持するために、苦労や環境汚染問題、人権問題が現実では起きてしまっている事を、知って頂き、一人でも多くの受講生が興味を持って取り組む環境を作ってあげられる事に意義を感じております。

また、このような機会は減多にない為、当社の社員教育にも良い影響を与えられると感じました。



ユーコープの“まるごとサステナブル”

2024 年
11 月 19 日

coop 生活協同組合ユーコープ：河澄 一志

講義 内容

1. 講義にあたり、消費生活協同組合およびユーコープが、どのような歴史を持ち、どのようなことを行っている団体なのかについて説明しました。
2. ユーコープの「人・社会・自然の調和ある平和な社会の実現に貢献する」という基本理念と、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念のもと、環境・貧困・格差などの社会課題を包括的に解決する考えは重なっていることを説明し、ユーコープがSDGsに取り組む意義や目的を説明しました。
3. 上記をふまえ、ユーコープの事業における生産から消費までのSDGsに関する取り組みや、地域での活動、社会貢献活動がSDGsにどのようにつながっているのかを説明しました。
4. SDGsの目標8「働きがいも 経済成長も」の視点で、自身にとって働き続けることができる職場選びの視点について、人事担当者より説明し、ユーコープの採用スケジュールなどを紹介しました。

受講生 の感想

- ・今回、ユーコープさんのお話を聞いて、サステナブルとはどのようなものか、私たちの未来の生活を守るための地球環境や資源を大切にすることがどのようなものなのか理解を深める機会となりました。1人1人が社会のためになにかできることがあるのかという社会参加を今はできているとは自信を持って言えないけれど、自分だけ良ければいいと考え方ではなくSDGsや持続可能な社会を作り上げていくことの良さを感じました。自分たちがこれからの社会を生きていく上で1人の力ではできることに限度があると思う時に、同じ意思を持つ人と何かをしようとするにはどのような準備や環境が必要なのか気になりました。本当の貧困の方々はまず情報に弱い状況にあると思っていて、食事のサービスだったりを実際に利用したい人が利用できてないことがあると思うので改善策を考えていきたい。
- ・ユーコープさんの話を聞いて、「誰一人取り残さない」という言葉がとても良い合言葉であると感じた。この世界にはまだ環境・貧困・格差などの社会問題があり、まともに食事を取れていない人がいたり、私たちが当たり前と感じている生活をできていない人がいる。このような世界で苦しんでる人がいる世界ではなく、皆が笑顔で暮らせて、持続可能な社会を目指すユーコープさんの取り組みに興味をもった。サステナブルな取り組みとして、募金活動を行い支援したり、ボランティア活動として実際に現地に行くなど私たちもできることがいくつかある。そのため、少しでも苦しむ人が減るように協力していきたいと思った。また、私たちの今の生活は当たり前ではないため、幸せだと感じながら過ごしていきたい。

担当者 の感想

学生の講義に関する感想にあるように、持続可能な社会の実現に向けて「一人ひとりがどのように暮らしていくか」という私たちからの問題提起は、一定受け止めていただけたと感じています。受講された学生が、なにかひとつでも行動していただけることを期待しています。



ごみは社会を映す鏡

2024 年
11 月 26 日

TAKEMATSU



武松事業デザイン工房株式会社（かんきょうデザインプロジェクト）：武松 昭男

講義 内容

人類が存在する限りごみも存在する。

幾重もの環境施策を施してきた成果として、大量生産・大量消費・大量廃棄はすでに死語のように思われる。しかし、新素材の開発によって新たな質の廃棄物の発生、そして世界に視線を転じれば人口増加に伴う日用品等の生産の増加に伴う廃棄増加は、実は想像に難くない。技術が発展に合わせ、ごみも変質し、従来のごみと混ざり合って社会に出現してくる。

これからも安定した廃棄物処理が続けられる社会に結び付けるには、製品の設計段階から持続可能な資源の利用を考慮し、資源の循環利用を製品のライフサイクル全体で最大化する「サーキュラーエコノミー（循環経済）」という考え方に転換していくことが求められる。

思考の転換は容易なものでないが、いま私たちは何を学び、何に関心を向ければいいのか。また思考転換や試行錯誤に充てられる猶予は十分にあるわけではない。

豊かな知識で、広く大きく、遠い将来の情勢を見通せるようになって頂ければと願い、講義を進めました。

受講生 の感想

- ・他大学の学生や教授の環境保護へ対する考え方を紹介して頂いたことで、他の学生がどのような意見を持っているのか知ることができた。
- ・宇宙開発でもゴミ問題に関して人工衛星やロケットの残骸が宇宙空間にあることは少し知っていたが、そうしたものをデブリと呼ぶことや、その問題性についてはあまり知らなかった。
- ・「ごみは社会を映し出す鏡」に共感しました。
- ・資源が無限にあるものではないと改めて認識するべきだと思った。

担当者 の感想

言葉を交わす「対話」ではないが、教室内の学生の雰囲気や講義後の学生のアンケートとの「対話」は講師としての力量を向上させることに繋がっているので、次回も参加したいと思います。



生協ってなに？ ふしぎな組織の環境活動

2024 年
12 月 3 日

pal*system
パルシステム神奈川

生活協同組合パルシステム神奈川 環境推進課：海野 満、採用育成課：朝倉 和男
パルシステム生活協同組合連合会 人事教育部 人事 1 課：若林 祐貴

講 義 内 容

パルシステム神奈川から、

1. 講師が中途採用で入協の際のとまどい
2. 生活協同組合と株式会社の違い
3. 講師が「え、これやるの?」と思った仕事 BEST3
4. 商品づくり、活動について
5. パルシステムが行う環境活動

講師が中途採用で入協した際に、企業と生協の違いに戸惑った体験などをお話し、当組合が行っているマテリアルリサイクル、サーキュラービジネスなどの環境活動についてクイズを取りいれながら講義を行いました。

また、パルシステム生活協同組合連合会から、

1. パルシステムグループ紹介
2. インターンシップのご案内

を行い、パルシステムグループの組織紹介とインターンシップなどの新卒採用について採用担当より説明させていただきました。



受講生 の感想

- ・生活協同組合は、株式会社と違い、消費者の声が届きやすいと思いました。生活協同組合の一人に一票という仕組みは、普通の会社にはないので、大変魅力的だと感じました。利益を求めるのではなく、消費者の幸せを望む姿勢は、現代の社会に必要な事だとも感じました。
- ・利益の追求ではなく、組合員にとっての「共益」を重視しているため、安心・安全な商品を手頃な価格で提供する仕組みが魅力的です。
- ・生協職員のお仕事ではこんなことやるのというのがあった。その一つとして、原子力発電所の事故の影響に不安を抱える親子のために甲状腺検診をするというものである。このような誰かのためにというための仕事をしていることが多いと感じた。
- ・パルシステムの環境への取り組みは、持続可能な社会の実現に向けた先進的な試みとして非常に印象的でした。農業支援やCO₂削減、プラスチック削減といった具体的な施策は、日常生活の中で環境負荷を減らす重要性が分かりました。特にリユース容器の活用や食品ロス削減の取り組みは、消費者にも実践可能なアイデアを提供しており、共感しました。
- ・環境活動と具体的にどのような活動をしているか知ることができました。驚いた点は水力発電の候補地の調査や被爆者の方々への支援、甲状腺検査といった活動が意外だと思いました。

担当者 の感想

初めて寄附講座に参加させていただきました。今回登壇の機会をいただき感謝申し上げます。

生協を知らない学生の皆さんに対し、ただ組織のことや環境活動の取り組みを説明しても伝わらないと思うので、実際に「えっ!」と思った業務体験を通じて説明をしようと思った講師から提案があり今回体験談を基にお話をさせていただきました。皆さんの感想を拝見し、私どもの想いがしっかり届いたと感じ、講師とともにホッとしております。

また、採用説明も可能ということで、今回パルシステムグループが行っている採用について説明させていただき、結果3名の学生が公式LINEグループに登録いただくことが出来ました。ありがとうございました。



オカムラの木材利活用による “サステナビリティの推進”

2024 年
12 月 10 日

okamura

株式会社オカムラ サステナビリティ推進部：大下、遠藤
カスタムデザイン部：角田

講義 内容

オカムラのサステナビリティの推進の取り組みの中で「木材の利活用による」部分にフォーカスを当てた講義を実施。

1. オカムラの経営理念、“オカムラウェイ 人を想い、場を創る。”を説明。すべての人が生き活きと活躍できるサステナブルな社会を実現するために設定したサステナビリティ重点課題4分野に基づき具体的な活動を紹介。



2. オカムラの考える木材の利活用について説明。国産木材を活用する意義・目的を伝える。地球温暖化防止のための活用と日本の現状と必要性、森林保全・健全化、経済活性化の関係についてオカムラの活動、製品の事例を通して講義。



受講生 の感想

- ・環境問題の改善にいち早く取り組んできた姿勢は、この会社の強みだと感じました。
- ・日本は、国土の7割が森林というのは驚いた。日本の木を今よりも使い、使った分だけ植林をすれば、このサイクルは持続可能で、自然にも優しいので、国を挙げて取り組むべきだと思った。
- ・森、林への還元を目指し、木に付加価値をつけ、販売することでその利益を森に還元するという仕組みが今後の時代における循環型社会に、繋がって行くと思い、共感した。他には、以前まで車や飛行機といったものづくりの事業者をさせていた中でその精神からオフィス用品、家具などに繋がっているところに感銘した。
- ・もう少し、フリーアドレス制をアピールしてほしい。そう感じた。理由は、記載がないのもそうだが、和気あいあいの感じをあまり感じなかった。和気あいあいな写真とその説明がより、欲しい。

担当者 の感想

国が国産材の利活用推進を掲げて四半世紀が経ちますが、その意義や目的、日本の森林や林業の現状が学生たちに十分浸透していない現実に毎年の講義で驚かされます。



会社概要と当社のサステナビリティ活動の紹介／ 鉄道の環境優位性、SDGs —鉄道技術とエコプロジェクトの関わり—

2024 年
12 月 17 日



東洋電機製造株式会社 交通事業部交通技術統括部：大久保 孔靖
経営企画部広報・IR・CSR 課：春日 玲美

講 義 内 容

当社の会社概要、環境理念やサステナビリティ方針、事業を通じた地球環境にやさしい社会・産業インフラへの貢献、金沢区にある横浜製作所での省エネやリサイクルの取組みをご紹介します。

また、身近な乗り物である鉄道車両の種類や特徴、電車にとって欠かすことのできない電機製品を生産する当社の役割、電車は他の交通機関と比べてエコな移動手段である理由（鉄道のエコ（CO₂排出抑制アプローチ）、鉄道車両のエコに関する取組み）について、具体的な事例を交えてご紹介しました。



【3-11】なぜ鉄道(電車)は地球にやさしいのか？

■電車は電気を効率的に使い、走りながら発電もできる！

■電車のCO₂排出量は他の乗り物よりも少ない！

つまり...

鉄道(電車)は、CO₂排出量の少ない地球にやさしい乗り物です！

【4-2】なぜ鉄道(電車)はエコなの？

電車には電気を上手に使う仕組みがたくさんあります

① 走る時

今まで(昭和)の電車

新しい(平成・令和)電車

摩擦熱が発生

走る分だけ電気を使います

摩擦熱が発生しません

●当日投影したスライドの一例

受講生の感想

- ・電車のパンタグラフや下のモータ機器、インバータなど東洋電機製造が作っていることを知り、電車の会社の方で作っているものだと思っていたので、新しい知識がついてよかったです。
- ・電車の走行に必要なパンタグラフなどの部品を東洋電機製造が国内でいち早く開発したことには、大変驚きました。最初から最後まで大変ためになるお話でした。
- ・今回の寄附講座を聞いて、鉄道車両の種類の多さと、それぞれの特徴、車両ごとにエコへのアプローチをされていて、よく考えられているなと感じました。また、鉄道のエコでは、CO₂削減のため、地球温暖化防止のためにさまざまな形でアプローチをされていて、勉強になりました。

担当者の感想

毎年、当社の事業内容や鉄道が環境に優しい乗り物であるというご紹介する機会をいただき、感謝しております。学生の皆さんに熱心に講義を聞いていただき、多くの気付きを得ていただいていることが分かり、私たちも良い刺激をいただいております。今後も学生の皆さんに、企業が事業を通じて社会に貢献している取組みを理解していただけるよう、努めてまいります。ありがとうございました。

第1部：過去に学び、これからの環境を考える

～環境対策の歴史からSDGsまで～

第2部：昨今の生物多様性の動向について～主に環境行動の側面から～

2024 年

12 月 24 日

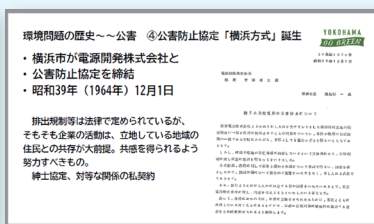


横浜市みどり環境局 第1部 環境活動事業課：森山 晴美

第2部 戦略企画課：長澤 亮

講義 内容

公害や廃棄物のテーマを中心に、環境問題を克服するための都市づくりの歴史や、環境保全のための横浜市の取組を紹介しました。さらに、身の回りの環境、地球環境問題を考える上で重要なテーマである生物多様性について、国内外の動向とともに、行政政策や市民意識調査の結果を紹介しました。これらを踏まえて、環境問題を自分ごととして捉えて、積極的に環境行動を行うことの重要性をお伝えしました。



受講生 の感想

- ・私は横浜市育ち、横浜市在住ですが、改めて横浜市が戦後の高度経済成長期を経て、目覚ましく発展してきたということ、時代の変化のスピードの速さを実感しました。また、都市づくりにおいて、環境に負荷をかけてしまうということの深刻さやそれに対する施策の重要性、行動力の大切さを感じ、環境問題の歴史には、当時の人々の様々なやり取りや後に活かさなければならない過去があるということを感じ強く認識できました。
- ・過去から学び未来を見据えることの重要性を実感しました。
- ・生物が私たちの生活、周りの環境にどのように関係しているか考えたこともありませんでした。今日学んだことをこれからの自分自身の活動に役立てるようにしたいです。
- ・生物多様性の話が非常に興味深かったと感じた。生き物たちのつながりで私たちが食べている食料などの75%が基盤となって存在していると知り、私たちが食べ物を食べる上で非常に大事な役割を果たしていると知った。これからはそのことを忘れずに生活していきたい。
- ・社会を支えている自然を傷つけないよう、ただ無意識に物事を過ごすことなく意識して、できそうなことは躊躇なく実行していくことが大切だということを感じることができました。
- ・プラネタリーバウンダリーの9項目のうち6項目がすでに限界を迎えているということに地球環境に対して危機感を覚えました。
- ・自分自身横浜市民として、環境や自然のことを考えながら、さらに建築環境学部として環境についてより考えを深める機会になった。地球上の一員として自分自身も持続可能な社会の実現に協力していかなければいけないと思いました。
- ・一人ひとりの行動が未来につながるという言葉が印象に残りました。

担当者 の感想

学生の皆さんのアンケートからは、今の安心安全の生活を将来にわたって守っていけるよう「実践する」「行動する」「発信する」という言葉を多くいただけて心強く感じました。

歴史や世界の潮流は、自身の今の生活に必ずつながっています。一人一人が歩いていく中で、様々な選択の一つの決め手になれたなら幸いです。それが2030SDGsゴールの達成につながると信じています。

